2 各種委員会報告

2.1　図書委員会

2016 年度は委員会を 4 回開催した。各回の審議事項は下記のとおりである。

第 1 回（6 月 17 日）　① 2016 年度各種委員会委員構成について

第 2 回（7 月 4 日）　① 2016 年度教育・研究に関する年度計画書について

② 2016 年度自己点検・評価（2015 年度報告書）について

第 3 回（10 月 28 日）① 2017 年度予定経費要求について

② Wiley 社電子ジャーナルパッケージ契約解体について

第 4 回（2 月 28 日）　① 2017 年度予算について

② 2017 年度図書予算配分について

③ 2017 年度図書館各種資料申込みについて

以上に基づき実施された政策の特記事項として，以下が挙げられる。

● 2017 年度において，図書館開館業務委託費，図書館資料整理業務委託費等の契約については，2016 年度並の予算確保ができたが，その他の図書館予算については 2014 年度から厳しい状況が続いている。電子ジャーナル，データベース等の契約見直しを行っているものの，研究用図書費，学習用図書費については，増額は実現できていない。今後は，電子ジャーナル契約の見直しとともに，図書費配分の見直しを進める。

2.2　収書部会

2016 年度の『収書部会』の開催はなかった。

2.3　特別資料選定分科会

本年度は予算的な事情により，特別資料費による特別資料の公募・選定を行わなかった。

2.4　電子資料分科会

2016 年度は以下のとおり分科会を開催した。

●第 1 回（6 月 24 日）：　新規研究用新聞・雑誌，バックナンバー，電子資料の選定。Wiley 社電子ジャーナルパッケージ契約見直し提案の検討，2017 年中止予定タイトル決定。

●拡大（7 月 22 日）：　Wiley 社電子ジャーナルパッケージ契約見直し提案（代替手段，タイトル選定方針）の検討。

●第 2 回（11 月 30 日）：　Wiley 社電子ジャーナルパッケージ契約見直しに伴う新規購入申請の対応検討。

●第 3 回（2 月 23 日）：　2017 年度中止・縮小予定電子資料と見直し方針の検討。

2016 年度は，2013 年度に行われた Elsevier 社電子ジャーナルパッケージの契約見直しに引き続き Wiley 社電子ジャーナルパッケージの契約見直しを行うこととなり，拡大電子資料分科会も含め回を重ねて検討を進め，代替手段の確保，タイトル選定に伴うアンケート調査なども関連して実施した。この結果，2017 年からはキャンパス別購入（うち複数キャンパスでの購入含む）68 誌が選定され，購入誌以外のタイトルは ILL（図書館相互貸借による文献複写）もしくは DDS（Document Delivery Service）によって提供されることとなった。

新規購入申請に関しては，Wiley 社電子ジャーナルパッケージ契約見直しに伴う受付停止措置が承認され，第 1 回で採択された研究用雑誌のほか，学習用雑誌，申請者が導入経費を負担する電子資料など新規購入申請の一部に限り導入することが決定された。その結果，研究用新聞･雑誌 3 誌（洋雑誌），学習用新聞･雑誌 1 誌（和雑誌），バックナンバー 2 誌（和雑誌），電子資料 1 タイトルが新規契約・購入となった（別項「新規契約電子資料一覧」参照）。 雑誌・電子資料費については，外国語雑誌の価格高騰の継続と為替変動による影響など価格抑制が非常に困難な状況が続いているのに加え，次年度のデジタル資料費が大幅に削減される見込みであるため，今後も大型電子ジャーナルパッケージをはじめ既存資料の継続中止・縮小検討を進めていくことが確認

された。

2.5　図書館基礎資料選定分科会

2016 年 11 月 25 日に選定委員会を開催し，選定候補から購入資料を決定した。購入内容は別項「図書館基礎資料購入一覧」の通り。また，同日委員会にて，今後，学習用の高額継続資料は，図書館基礎継続資料として購入することを決定し，その基準を『図書館基礎資料選定ガイドライン』に定めた。これに基づき，次年度から現在中央学習用図書費購入の高額継続資料を移管する。

2.6　アフリカ文庫選定分科会

2015 年度中に『アフリカ文庫』を和泉図書館へ移設した。2016 年度の『アフリカ文庫選定分科会』の開催はなかったが，継続購入図書の受入れを行った。2016 年度図書予算は 48 万円である。

2.7　蘆田文庫選定分科会

例年のとおり，定例の分科会の開催は最小限にとどめ，相互の連絡による機動的な選定活動を行った。本年度は以下の資料を選定した。『[江戸図]』はすでに所蔵している江戸図にない形式であったため購入を決定した。『御殿図』は岩田豊樹氏の蔵書印があり，2014 年に寄贈を受けた岩田豊樹コレクションに含まれるべきものであると判断し，購入を決定した。

■　[江戸圖]. -- [出版者不明], 18--. a.

■　御殿図 . -- [書写者不明], 18--. a.

2.8　江戸文藝文庫選定分科会

本年度は分科会を招集せず，メーリングリストによる会議の形式で協議・選定を行った。その結果，全 5 点の資料を選定した。選定資料は以下のとおりである。

■勧善浮世車 4 巻 / 松亭金水作；橘蝶樓貞房画 . -- 森屋治郎兵衛 , 弘化 5 [1848].

■新靱田舎物語 6 編 24 巻闕第 4-6 編 / 十返舎一九作；歌川豊國 , 歌川貞秀 , 一雄齋國輝画 . -- 蔦屋吉藏 , 嘉永 2 [1849]- 嘉永 3 [1850].

■鶯塚梅の魁 5 編 10 巻 / 松亭金水作；一壽齋國政 , 一耀齋芳玉画 . -- 惠比壽屋 , [18--].

■北廓花盛紫 3 編 9 冊 / 春亭史彦作；梅堂国政画 . -- 松延堂大西伊勢屋庄之助 , 明治 14 [1881].

■板垣君近世紀聞 3 編 / 中島市平編輯；東洋太朗閲；梅堂國政画 . -- 辻岡文助 , 明治 15 [1882].

2.9　ケベック文庫選定分科会

2005 年度にカナダ・ケベック州政府の助成を受け，2006 年度から本学拠出金と合わせて実質的な『ケベック文庫』資料収集が始まったが，2010 年にケベック州政府からの助成が中止となった。本学におけるケベック研究の推進者で長く座長を務められた小畑先生の遺志を継ぎ，管副館長を座長として，『ケベック文庫』の充実を図っていく。2016 年度図書予算は 12 万円である。

2.10　日本近代文学文庫選定分科会

7 月に分科会を開催し，日本近代文学文庫選書基準（案）及び選書方法を確認した。 2016 年度は以下の全 6 点の資料を購入した。

■ 詩集　まひる野 / 窪田空穂著 . -- 鹿鳴社 , 1905.9

■さざなみ軍記 / 井伏鱒二著 . --　河出書房 , 1938.4

■聖處女：長篇小説 / 室生犀星著 . -- 新潮社 , 1936.2

■普賢：石川淳小説集 / 石川淳著 . -- 版画荘 , 1937.3

■続百鬼園随筆 / 内田百間著 . -- 三笠書房 , 1934.5

■江戸藝術論 / 永井荷風著 . -- 春陽堂 , 1920.3

2.11　学術・教育成果リポジトリ運営部会

2016 年度も，継続して著作権者への許諾書発送，及び許諾論文のメタデータ PDF データの作成を業務委託により実施した。対象コンテンツは各学部紀要等の学内出版物，博士論文である。

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）が設立され，以下の総会に出席した。

● 2016 年 7 月 27 日オープンアクセスリポジトリ推進協会設立総会

● 2017 年 3 月 8 日オープンアクセスリポジトリ推進協会総会

JPCOAR への入会申請を提出し，認められ会員機関となった。JAIRO Cloud へのリポジトリシステムの移行はまだ検討段階である。

2.12　図書館広報部会

2016 年度の『広報部会』の開催はなかった。『利用案内編集文科会』から，図書館 HP の改訂について要望が出ている。

2.13　図書館紀要編集部会

2016 年 7 月 20 日に『図書館紀要編集部会』を開催し, 前年度からの継続課題であった投稿規程の制定, ページ番号の振り方の変更及び第 21 号（2017 年 4 月発行予定）の構成について検討した。『図書の譜』第 21 号を刊行した。（A5 版，147 頁，2016 年 3 月 10 日刊行，600 部発行）特集については特に定めず，教員，退職教員，職員などから多くの論文が寄せられた。巻頭言『明治大学図書館の歴史』（山泉館長），『杉並区図書館ネットワーク講演会』（鈴木副館長），『西江文庫へむかって』（管副館長）と館長・副館長全員が寄稿されている。

2.14　書評コンテスト選考部会

応募要領を 7 月に公開。9 月下旬に 4 図書館で計 6 回の「書評の書き方講座」を行い, 合計 52 名が参加した。募集期間は 10 月 1 日から 31 日までであり，41 編の応募があった。12 月 14 日に選考部会を開催し，最優秀賞から佳作まで 12 名の受賞者を選定した。1 月 31 日に和泉図書館ホールで授賞式を行った。その後，受賞作品を HP に掲載したほか，「第 7 回明治大学図書館書評コンテスト受賞作品集」を刊行して配布した。2 月に中央図書館 1 階エントランス内側に「書評コンテストコーナー」を設置し受賞対象作品を展示することにより，図書の貸出を促進した。

2.15　生田図書館ギャラリー運営部会

生田図書館ギャラリー運営部会は，生田図書館ギャラリーの計画的な運営を目的とし，生田キャンパスに所属する図書館副館長を座長とし，理工学部及び農学部図書委員各 2 名をもって組織されている。

2016 年度は 3 月 8 日に運営部会を開催し，2017 年度ギャラリー展示企画について，教員・研究室等からの応募案件 7 件及び生田図書館企画 2 件からなる全 9 件について，展示の開催及び年間展示スケジュールについて承認された。

2.16　図書館活用法運営部会

学部間共通総合講座「図書館活用法」は 2000 年度に開講し，コーディネーターとタスクフォースの図書館職員で授業運営してきた。2015 年度に図書館活用法のあり方について問題提起されたことをきっかけに，図書館として組織運営する体制を整備するため，図書館活用法運営部会を設置することとなった。構成員は，教員については，コーディネーターに加え，館長及び副館長を追加し，職員については，学術・社会連携部長と各図書館事務室からタスクフォースメンバーを含む 2 名程度と増員した。

第 1 回目の部会は，7 月 29 日に開催した。前年度からタスクフォースで検討を続けていた図書館活用法の意義・目的を確認し，次年度の開講申請の手続きを進めるため，カリキュラムの検討や授業内容について審議した。また，この部会の下に，作業グループを設置することとし，タスクフォースを発展的に解消することと

なった。

第２回目の部会を 11 月 28 日に開催し，学習達成目標を確認し，シラバスの内容について協議した。

第３回目の部会は３月９日に開催され，作業グループで検討した授業指針を承認し，最終レポートの課題について方針をまとめた。

2.17　閲覧部署連絡会

閲覧部署連絡会は，図書館のサービスを改善するために，閲覧担当部署間の円滑な運営を目的として，2008 年１月に事務部長･図書館事務長会の下に設置された。連絡会は，上記したサービス改善の目的を達成するため，図書館利用規程に関する事項，貸出･蔵書業務に関する事項，レファレンス･マルチメディア業務に関する事項，その他連絡会が必要と認めた事項を審議するものと定められている（内規参照）。 2016 年度の会議体は中央図書館事務長を委員長とし，中央２名，和泉２名，生田２名，中野１名の各図書館職員計８名で構成された。会議は，①５月 16 日，②６月８日，③ 10 月 17 日，④ 11 月 22 日，⑤ 12 月 12 日，⑥２月 27 日に開催したほか，随時メール審議を行なった。2016 年度は長期化している議題を集中して審議し，以下の運用の変更及び方向性を確立させた。当連絡会での検討結果は図書館スタッフ会議で審議し，必要に応じて図書委員会，当該運営連絡会等に上程し承認を受けた。 以下に，2016 年度の主要な内容を摘記する。

①学外連携サービスについて

学生の利用を優先しつつ，利用者が納得できるサービスを提供する変更と，利用方法の統一化を検討した。

・中野図書館の狭隘化に対し，中野図書館の利用を一時停止（リバティアカデミー会員・山手線沿線私立大学コンソーシアム・東京医科歯科大学）。

・学生の試験期間に伴う閲覧席の不足に対し，7 月･1 月の利用を学生優先に変更（学生優先の協力依頼の掲示･千代田区民・総合研究大学院大学の利用停止）。

・川崎市在住・在勤者の利用方法について，ライブラリーカード利用に統一。

・リバティアカデミー会員の図書館利用の変更については，変更案がリバティアカデミー運営委員会において承認され，今後運用に向けた協議をすることとなった（継続）。

②図書館サービスの改善について

Oh-o!Meiji による督促自動送信化，本の返却日設定のシンプル化，長期延滞本の処理変更，図書館利用案内の周知，長期休業中の長期貸出対象者の変更及び統一，その他。

③臨時連絡配送便について

長期休暇明けの配送が大量となることから，４便（7 月 18 日，12 月 26 日，1 月 9 日，1 月 7 日）臨時連絡便を手配し，大量配送の緩和を図った。

上記の外に，図書館の日常において円滑な運用を続けるために，日々課題が与えられている。歴史が古く４館から成る明治大学図書館は，キャンパスの立地条件や学部構成の違いもあり，諸手続，申請書式や利用サービスについて個別の取扱いが行なわれている状況が指摘されている。一方，個性の違う４館の図書館の魅力を図書館サービスに反映し向上していくために，メンバーの協働・連携が必要と思われる。

2.18　利用案内編集分科会

2017 年度の利用案内について，下記のとおり刊行した。

2016 年 12 月 16 日に『利用案内編集分科会』を開催し，利用案内（学生用）等の検討を行った。

・「利用案内（学生用）」（A5 変形型，28 頁，12,500 部）残部を有効活用する観点から，表紙に年度表記を行わないこととした。

・「教員用利用案内」（A4，12 頁）内容修正の上，各館で印刷を行い，新任教員ガイダンス等で配布する。

・「文献の探し方」冊子体での印刷は行わず，内容修正の上，図書館 HP で公開した。

・「OPAC ユーザーズガイド」既に図書館 HP で公開を行っているが，内容の修正を行った。

・「図書館開館ミニカレンダー」（四つ折り，12,500 部）図書館開館ミニカレンダーの体裁について検討を行い，一部デザインを変更した。

2.19 『らいぶ』（図書館報）編集分科会

2017 年度号（通算第 23 号・2017 年 3 月発行）を発行した。『らいぶ』は主に新入生図書館利用ガイダンスで配布するので，新入生が手に取りやすいよう，昨年同様表紙は各キャンパスの図書館をよく利用する学生たちの集合写真で構成されている。巻頭の教員からのメッセージには，管副館長が「図書館という荒野、海岸」というタイトルで図書館への誘いのメッセージを寄せている。2 ページ以降は，ポータルサービス，明治大学 4 図書館の特徴と館内マップ，各館のイベント・企画やよく読まれた本の紹介，また図書館を上手に利用するための「図書館活用術」など，初めて大学図書館を利用する人を対象にイラストや写真を多く入れて分かりやすい図書館紹介パンフレットとした。A4 版，カラー刷り 10 頁，5,500 部。

なお, 2013 年度より書評コンテスト受賞作品集を『らいぶ』別冊特集号として発行してきたが, 今回から『らいぶ』の別冊子としては発行せず，書評コンテスト選考部会より発行することとなった。

2.20　中央学習用図書選書分科会

中央学習用図書選書分科会は中央図書館事務長を委員長とし，図書館総務事務室及び中央図書館事務室の各担当から選出された委員により形成される。

本分科会は原則隔週で開催されており，和書 5 社，洋書 3 社の見計らいによる新刊学習用図書の選定や寄贈本の受入可否決定等を行うものである。

2016 年度中央学習用予算額は前年度の予算に比べ約 167 万円増となったが，年間継続支出額の割合は，相変わらず 6 割を超え，単行書の購入を逼迫した。

前年度より，抜本的な検討・解決が求められている現状を把握し，2016 年度は，大型・高額の継続購入図書を図書館基礎資料費に移行し，図書館全体で検討することとし，選書分科会においては，2014 年に実施された改善に倣い，約 400 万円の継続発注の部分停止等を実行した。

中央図書館の現状として，(1) 年間継続支出額のその予算額に占める割合を他館と同程度にすること，(2) 新規単行図書購入について，中央図書館として適正な冊数にすることを，次年度に反映して検証し，引き続き改善を検討していく。

2.21　教員による生田図書館学習用図書選書分科会

2016 年 6 月 17 日開催の図書委員会において，2003 年 3 月 14 日制定の「明治大学図書館教員による学習用図書選書委員会運営内規」を廃止し，新たに「教員による生田図書館学習用図書選書分科会運営内規」を制定し，同年 4 月 1 日より施行している。同内規に基づき，理工学部，農学部の各学科等より選書委員を選出し，2016 年度については，分科会委員長の管副館長の招集に基づき，7 月 1 日に理工学部教員，7 月 7 日に農学部教員による生田図書館学習用図書選書分科会を開催した。

両学部共に学生の読書支援策について協議を行い，昨年同様に直近に控える夏休みの読書支援策として「緑陰読書〜教員がすすめる本」（以下，「緑陰読書」）の企画を実施し，向後，毎年継続していくこととなった。推薦用紙もしくは HP からのダウンロードにより「緑陰読書」を集約し，夏期休暇期間中，新着図書配架棚の一角に教員ごとに配架した。

専任教員による見計らい選書は生田図書館のみで実施されているが，毎回，選書委員に見計らい期間のお知らせ（2 週間ごと）と共に見計らい図書のリストを添付しメールを出している。授業の合間に選書室に足を運ばれる選書委員も多く，大いに学習用選書に協力いただいている。

2.22　電子資料契約検討 WG

2016 年度は，Wiley 社電子ジャーナルパッケージ契約見直しを中心に検討・準備作業を行った。開催日と議題は下記の通りである。なお，年度途中で人事異動によるメンバー交代があった。

●第 1 回 (4 月 8 日), 第 2 回 (4 月 18 日)：　次年度中止検討／予定 (雑誌 _EJ_DB 等) タイトルリスト作成，Wiley 購読タイトル検討，DDS の業務フローについて，他。

●第 3 回（5 月 13 日），第 4 回（10 月 7 日），第 5 回（10 月 13 日），第 6 回（11 月 24 日），第 7 回（12 月 15 日），第 8 回(2 月 27 日)： Wiley 社電子ジャーナルパッケージ契約見直しに向けた準備と関連作業。

2.23 リテラシーイベント WG

2016 年 4 月に，4 図書館でポータルサービスへのメールアドレス登録キャンペーンを行った。主に新入生をターゲットとして，督促等の連絡を円滑に行うために行ったもので，登録者には「ブックマークふせん」（しおりと付箋のセット）と『らいぶ』最新号を配布した。これにより，1 年生のアドレス登録数は 35 から 290 へ増加し目標はほぼ達成されたが，他の学年ではそれほど登録数が伸びなかった。

また，中央・和泉・生田図書館で，11-12 月に「図書館で英語力 up!」と題し，外部講師を招いて英語の講習会を開催した。各図書館 2 日間開催し，参加者からは好評だったものの，参加者数がそれほど伸びず，課題が残った。

この WG で担当している学生ボランティアグループ「Meiji Book Avenue」は次のような活動を行った。4 月に新入生向けとして説明会とビブリオバトル・読書会をおこない，引き続き読書会を 5・6・7・12 月に開催した。特に 7 月には「長編小説読書会」としてドストエフスキーの「罪と罰」を取り上げ，15 名の応募者のうち 5-6 名が読破に至った。また 12 月より新聞を発行し，おすすめ図書の紹介や MBA の紹介を掲載して，4 館で合計 1500 部を配布した。他大学との交流も積極的に行い，図書館総合展での第 1 回学生協働サミットへの参加をきっかけに，京王線沿線 4 大学交流会を 12 月 17 日に和泉図書館で開催し，学生が案内する図書館ツアー等を行った。また，岸本辰雄奨学金に応募し，採択された。

2.24 電子ブック検討 WG

2016 年度も研究用図書で電子ブックの購入依頼があり，他館蔵書との重複などが問題にあがったこと，数年前から電子ブック購入依頼が増えてきたこと，学習用図書費での電子ブック購入もそろそろ本格的に検討が必要ということでこの WG が発足し，3 回の会議（12 月 2 日，19 日，1 月 20 日）にて審議した。その結果は電子ブック検討 WG 報告（2016 年度）と電子ブック業務フロー（案）にまとめた。この報告には新規予算細目を設けて，学習用図書としても電子ブックを各館の裁量で購入できることなどが盛り込まれている。